そらんぽへ行こう　Vol.88

開館30周年記念　特別企画展「昭和のくらし　昭和の一隅」開催中！

そらんぽ四日市ホームページ

博物館では、開館30周年記念特別企画展「昭和のくらし　昭和の一隅」を、４階特別展示室で３月３日(日)まで開催しています。

本展では、電化製品が少しずつ家庭に入り、豊かな暮らしの訪れに胸を膨らませていた「昭和30年代」と、電気・ガス・水道が家庭ではまだ便利に使えなかった「昭和初期」の２つのテーマ展示を中心に、暮らしの道具の進化と人々の暮らしの移り変わりを紹介しています。

それらに加え、今回は紙の魔術師とも呼ばれるペーパーアーティスト・太田隆司さんが創り出す昭和時代の人々と町の風景の作品28点も展示します。活気あふれる昭和の日常と、そこに住む人々や共に暮らす動物たちとの深い物語を感じることができます。

また、本展のために特別に制作された四日市の「とある場所」を再現したペーパーアートも展示中ですので、お見逃しのないよう、ぜひご覧ください。

「おかえりなさい、あの昭和へ」。昭和の風景に思いを馳せ、改めて今の暮らしを振り返ってみませんか。

問 博物館・プラネタリウム（TEL 355-2700　FAX 355-2704）

東京下町　人を、暮らしを乗せて・・・
©太田隆司

文化財さんぽ　Vol.22

戦国時代、北勢地方における第一級の山城「采女城跡」

采女城跡は、内部川と足見川の合流点を南に臨む、標高50～70mの泊丘陵尾根筋を利用して築かれた中世の山城です。東西200m、南北250mの規模で、北勢地方屈指の大きさです。

采女城は、300年以上にわたり後藤家15代の居城だったと伝わっています。廃絶については諸説あり、永禄年間（1558～1570年）に伊勢へ侵攻した織田信長軍によって滅ぼされたとも、その指揮下になったとも伝わっています。

独立した９つの郭、高い土塁と深い空堀、屈曲した形態の虎口、櫓台と推定される箇所、井戸などが極めてよく残っていて、北勢地方における戦国期の典型的な山城を知る上で第一級の資料とされています。

現在、地元保存会の活動により市民緑地として整備され、現地には案内板や説明板などがあり、一部急峻な場所もありますが、散策ができるようになっています。

現地に立つと、当時どれだけ守りを固めようとしたのか、土塁や空堀のすごさに圧倒されます。戦国時代に想いを馳せに訪れてみませんか。

問 文化課（TEL 354-8240　FAX 354-4873）

（イノシシの出没にご注意ください）

采女城跡の入口